

第27回愛教研小・中学校道德教育研究大会

第3分科会

主体的に学びを深め合う
生徒の育成に向けて
—「問い」を立てる道德科の
学習活動を通して—



主題設定の理由

道德科の授業

- ◎活発な話し合い活動
- ◎柔軟に他者の考えを受け入れられる

▼教師が投げかけた「問い」のみを考える
→基本的に受け身な姿勢



主題設定の理由

「問い」を立てる学習活動を通して、道德科の授業に主体的に参加し、学びを深め合う生徒を育成する。



生徒が主体的に学びを深め合う授業構成の工夫

主題名

命について考える
内容項目 D-(19) 生命の尊さ



ねらい

学習を通して、生命あるものが支え合って生きていることに気付き、責任をもって自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

主題設定の理由

【内容項目D-(19) 生命の尊さ 生徒の実態】

① 授業以外で「命」について自分なりに考えたことはあるか

ある 87%

13

■ある ■何度かある ■あまりない ■ない

② 「命は大切だ」と言われるがなぜ大切だと思うか (自由記述)


・「一人に一つしかなく、途絶えると二度と戻らないものだから。」
・「失われると悲しむ人がいる。」 など

「命の有限性」「連続性」「偶然性」「人との関わり」については○
→考えた内容が深まっているとは言えない。


生徒が主体的に学びを深め合う授業構成の工夫

教材について

① 「いのちの花プロジェクト」
主題【命の価値】
 動物愛護センターで殺処分された動物の骨を使って花を育てるプロジェクトの話

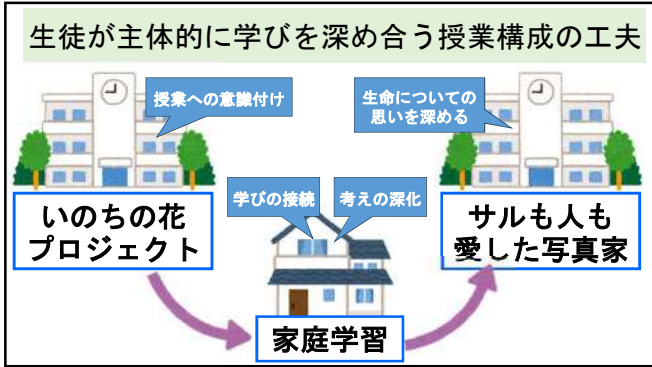


② 「サルも人も愛した写真家」
主題【命あるものとの向き合い方】
 サルを愛して移住した写真家が、害をなすサルの殺処分の協力を依頼される話



出典：「中学道徳3 とびだそう未来へ」p.81、113（教育出版）

時	主題・教材名	主な学習活動	指導の工夫
1	「命の価値」 いのちの花プロジェクト	○話を讀んだ感想を共有する。 ○命の差について考える。 ○命との向き合い方について考えをまとめる。	・「命の差」について事前にカード作成
課題		①授業で書いた感想を共有する。 ②友人の感想や、周囲と話したことから考えたことをまとめる。 ③次時の教材を読んで、「問い」を考えておく。	・提出箱の共有（他者参照）
2 3	「命あるものとの向き合い方」 サルも人も愛した写真家	【第2時】 ○「問い」の共有、精選をする。 ○興味がある「問い」について考える。 【第3時】 ○主人公の葛藤を考える。 ○アンケートで中心発問を決定する。 ○これから命あるものどう向き合っていくか考えをまとめる。	・「問い」を立てる学習活動の展開 ・共有ノートの活用 ・思考ツールの活用




生徒が主体的に学びを深め合うための学習活動の工夫

(1) 「問い」を立てる学習活動

(2) 学びを深め合うための
交流し考える学習の工夫

- ・提出箱の共有
- ・共有ノートの活用
- ・思考ツールの活用
- ・フレーズ集の提示



(1) 「問い」を立てる学習活動

① あなたは、「命」に差はあると思いますか。

あなた 先生

② あなたは、「命」に差があってもいいと思いますか。

あなた 先生

【その理由を書きましょう】

個人の思い入れなどに、すべて命の価値は変わるものではないかと思う中で、多少の差はあるだろうし、無意味な差はあってもいいと思います。
でも、差が無くても高い地位のものが守られ、保護がないとされる命を簡単に見捨てることはあきらまらぬことだと感じるので、命に差はない方がいいと思います。（自分にとって命のあるものを大切にしたいので、命を守るために差があってもいいと思います。差はいいです。）

【「命の差」について】

- ・授業開始前に作成
→考えが揺さぶられ、**集中して「命」について考えようとする**
- ・授業を通して
何度も振り返る
→道徳科の授業で、**もっと考えたいという意欲が喚起される**

「問い」を立てる学習活動の工夫

「問い」を立てる(個人) → 「問い」を共有する(小集団) → 「問い」を分類する(小集団)

「サルも人も愛した写真家」を讀んで考えてみたいことを挙げてみよう

松岡さんは、サルが悪さをすると、理不尽に怒られてしまったときの松岡さんの気持ちはどうだろうか。	イモをサルに食わされてしまったおばあさんに理不尽に怒られてしまったときの松岡さんの気持ちはどうだろうか。	村の財政を圧迫させるほどサルが人間を悩ませているのはなぜか。
松岡さんはサルの駆除をするに聞いてどんな気持ちになったのか。	松岡さんはサルの駆除に手を貸したのだろうか。	この地域でサルと人が共存できる方法はあるのか。

家庭学習

「問い」を立てる(個人) → 「問い」を共有する(小集団) → 「問い」を分類する(小集団)

「全体で考えてみたい」という意見が多いカード

「問い」の順位付け(小集団) → 共有(全体)

上位には似た内容が並んでいた。

「問い」を選ぶ(全体) → 中心発問として使う → 選ばれなかったものは基本発問や補助発問に

【中心発問】なぜ松岡さんは愛したサルの駆除に協力する道を選んだのだろうか。

サルを育てた責任(けじめ)として、最期のお別れがしたい。

愛しているからこそ現実から目をそらしてはいけない。

駆除はするが最期は愛情をもって、自分の手で見送ってやりたい。

「問い」を選ぶ(全体) → 中心発問として使う → 選ばれなかったものは基本発問や補助発問に

「サルも人も愛した写真家」

【考えたい疑問を一つ選ぼう】

サルと人間が共生していくためにはどうすればいいのだろうか

【疑問について考えたこと・調べたことを書こう】

※現在の南米のサルは人間と共生できない原因

○1人組 動物も人も愛した写真家

サルと共生するためには、松岡さんを見習うべきだと思います。サルのためにサルを殺し、駆除しようとしています。しかし、サルも人間と共生して暮らしています。家族だ、仲間だと思われているのではないのでしょうか。なぜ松岡さんはサルに反対されているのでしょうか。

一つは松岡さんがサルのことを愛しているからだと思います。松岡さんはサルを愛するのよき姿を見せていると思います。そのよき姿がサルにも伝わっているからだと思います。松岡さんはサルからも愛されていたのだと思います。

二つ目は長い期間観察しようとする姿だと思います。サルの生活は、早くサルによる被害がなくなってほしいとは思っていましたが、長い時間をかけて観察する姿を敬慕しています。結果を報告していくことが大切だと思います。私たちが知りたかった人間関係もこうだとするといいと思います。観察の長い期間で、までを待つ姿にあらがいに学ぶことができています。

写真を大切にしようという気持ちを。見る人の気持ちを察知して撮影していくことが大切だと思います。

(2) 学びを深め合うための交流し考える学習の工夫

提出箱の共有

授業でまとめた感想の共有

他者参照 多様な考えに触れる

提出箱の共有

友人の感想を読んだり、周りの人と話したりして考えたことをまとめる

友達と命について話していたら、「そもそも命って何だろう」という疑問が生まれてきた。

〇〇さんの意見を読んで、「命は平等、差はない」と思っていたけど、「命の差はあっても、多くの犠牲のもと生かしてもらっていることを忘れてはいけない」という考えに変わった。

両親と話してみたら、両親の考えに共感した。「命とは何か」このような疑問の答えを自分なりに考えることが大切だと思った。

「命の花プロジェクト」

【友だちの感想を読んで、考えたことを書こう】

私は命に差があってもいいと思っていました。しかし、**自分の意見を聞いて考えが少し変わりました。**はじめは「命は平等、差はない」という考えでしたが、「命に差はあってもいいが、たくさん犠牲を払って生かしていることを忘れてはいけない。」という考えになりました。私たちは「命は平等」と言っていますが、無差別に動物を殺処分しています。それは人間が責任感もなければ、自分たちの利益を押し通しているだけなのではないかと思えます。「人間が野を生きるものたちの食糧になれ」と言われたら人間は「人権侵害だ」と訴えると思います。命は平等でもないのかなと感じました。ですが、だからといって命を無駄にしているはずがありません。なので「命の差はあるのかもしれないけれど、ただたくさん犠牲を払って生かしてもらっていることを忘れない」ということを胸に刻み、これからの人生を歩んで行きたいと思えます。

【授業を終えて、周りの人と話したことを書こう】

友達、命についていろいろと聞いたら「そもそも命ってなんなんだろう？」という疑問が生まれるなど、深くなるほど難しいということを知りました。友達の家でも、飼った犬への虐待を録音している人がいると聞きました。私は身近でもそういうことが起こっている現状がショックだと思います。人間が命を犠牲していることもわかる一方で感じました。

両親、話してみると、思ったより重たいように感じるけど改めて「命ってどういうもの？」と聞かれると分からないのではないかと書かれました。また、「命がなんたかわからないから理解するんじやない？」とも書かれていて、**自分の意見が通じました。**「命とは何か」「何が命を粗末にしようとするのか」、そう言った疑問の答えを自分なりに考えることが大切だと考えました。

共有ノート・思考ツールの活用

「問い」を立てる学習活動

意見交流
他班から参考になる考えを取り入れる

2班

共有ノート・思考ツールの活用

主人公の心の葛藤を視覚化

他者参照
途中参照
様々な意見に触れ、自らの考えをより深め、広げられた

意見を活用
大きさを調節して葛藤を視覚化

フレーズ集の提示

「問い」を立てる学習活動

班活動時に使ってみようフレーズ集

- ① 深める質問
「どうしてそう思いますか？」
「もう少し詳しく説明してください。」
- ② 広げる質問
「同じ意見の人はいますか？」
- ③ 揺さぶる質問
「反対の意見の人はいますか？」
「他の意見はありませんか？」
- ④ 投げかける質問
「～のような意見の人はいませんか？」

これについて、もう少し考えてみない？

確かにこれってなんだろう？

実践を振り返って

命を大切にすることは、生きている人間だけを大切にすることはなかった。私たちが生きている限り、何かの命が犠牲になっている。そのことに相当な感謝をして生きていきたいと思う。

感謝すべきものがたくさんあることに気が付いた。これから先も、責任と覚悟を持って判断したいし、大切にしたいと思う。

このような授業を受けていたら、問題になっている戦争や自殺が減っていくのではないかと思った。

研究の成果

- 生徒全員が「問い」を持って授業に臨んだ
 - ➡生徒が持つ様々な探究心を呼び起こすことで、問題意識を高められた。
 - ➡主体的に学びを深め合うことにつながった。
- 思考ツールや共有ノートを用いた他者参照
 - ➡これまでより多くの意見に自由に触れることで、学び合いの質を高め、理解が深まった。

研究の課題

- 授業の組み立て方法の改善
 - ➡継続した実施、内容の精選、方法の検討
 - 1時間の授業内で十分に行えるのではないかな。
- 主題を伝えずに「問い」を立てる場合の課題
 - ➡どのようなテーマになっても授業が展開できる心構えと準備、教材研究が必要

おわりに

魅力的な教材との出会い
他者との対話



道徳的価値について自己
の考えを問い直す

- ★松山の授業モデル等
- ★自己の指導力の向上
 - ・生徒が主体的に学びを深め合う授業
 - ・人間としてのよりよい生き方について考えを深めていく生徒の育成